

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成30年度農作物病害虫発生予察情報について

平成30年度農作物病害虫発生予報第6号を発表したので送付します。

**平成30年度農作物病害虫発生予報第6号**

平成30年8月3日  
徳島県

**I. 普通作物**

**普通期水稲**

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月5・6半旬の巡回調査では, 葉いもちの発生圃場率が27.6%と, 平年(51.3%)に比べてやや低く, 発病度も0.8と, 平年(5.3)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生が多い圃場では, 使用基準を確認の上, 粒剤の場合は出穂10日前までに, 液剤の場合は出穂直前までに薬剤防除を行う。また, 出穂後曇雨天が続いた場合は穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月5・6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が41.4%, 発病株率は6.5%と, 平年(40.0%, 10.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況は圃場によって大きく異なるので, 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し, 上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月5・6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が41.4%と, 平年(63.3%)に比べてやや低く, 株当たり寄生虫数は0.03頭と, 平年(0.22頭)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並, 日

照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月5・6半月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期には、発生圃場率 0.3%, 株当たり寄生虫数 0.0頭)。

(2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月5・6半月の巡回調査では、発生圃場率が 3.4%, 被害株率が 0.3%と、平年(12.8%, 1.5%)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 現在葉巻内で加害している老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低いので、次世代の若齢幼虫を対象に防除する。

(2) 過肥田や肥料切れの悪い湿田で多発する傾向があるので、窒素質肥料の施用は控えめにする。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 7月5・6半月の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、29地点のうち20地点で生息を確認した。捕獲地点率が69.0%, 地点当たりの捕獲虫数が 10.4頭と、平年(72.2%, 6.9頭)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない)。

(2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。

(3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認の上、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中」

## 2) 予報の根拠

- (1) 7月6半旬の巡回調査では、食葉性害虫による被害発生圃場率が100%、葉の被害度が17.1と、平年(97.9%, 17.5)並の発生である。
- (2) 7月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査4地点の平均)は、
  - ・ハスモンヨトウは、7月第5半旬までは平年並に推移していたが、第6半旬より急激に増加し、平年の約2倍となっている。
  - ・シロイチモジヨトウは、7月第4半旬より急激に増加し、第4～6半旬で1,007頭と平年の約1.8倍となっている。
- (3) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

[フェロモントラップ誘殺数(調査4地点の平均)]

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2018年	2017年	2016年	2015年	平年	2018年	2017年	2016年	2015年	平年
7.1	37	23	47	23	33	74	31	16	11	32
7.2	45	27	21	22	35	103	210	70	20	76
7.3	42	26	26	15	38	103	200	33	151	127
7.4	45	30	24	20	28	308	194	23	113	127
7.5	43	32	69	34	56	347	219	98	73	171
7.6	120	89	104	33	64	352	205	154	41	275
8.1		44	65	59	74		190	112	72	268

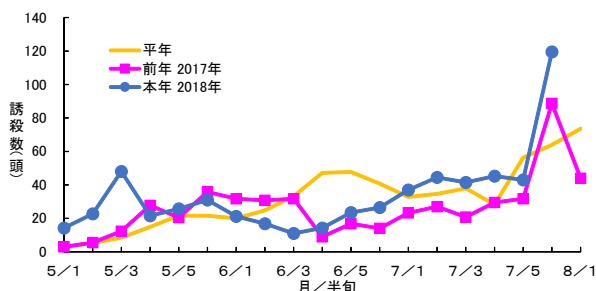


図1 哈スモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)  
\* 徳島市, 鳴門市, 松茂町の4地点平均

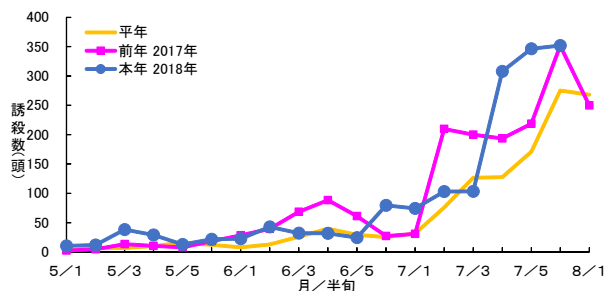


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)  
\* 徳島市, 鳴門市, 松茂町の4地点平均

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫時に徹底防除を図る。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が18.8%、寄生葉率が1.6%と、平年(25.1%, 1.6%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## II. 果樹

### カキ

#### うどんこ病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月6半月の巡回調査では、発生圃場率が83.3%、発病葉率が12.7%と、平年(75.3%、9.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今春、病斑の目立った園および多発生園では、防除を徹底する。

**果樹共通**

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月における勝浦町及び上板町の予察灯の誘殺数は、勝浦町、上板町ともに、ツヤアオカメムシは平年並で、チャバネアオカメムシは、平年に比べてやや少なく推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月・半月	勝浦町					上板町				
	2018年	2017年	2016年	2015年	平年	2018年	2017年	2016年	2015年	平年
7.1	78	186	7	51	50	37	38	2	6	15
7.2	44	51	2	96	49	14	28	1	31	14
7.3	43	129	3	179	64	11	26	0	38	12
7.4	51	159	4	83	59	4	22	1	19	9
7.5	65	161	4	73	56	2	29	0	13	7
7.6		302	47	43	98		44	0	11	9
8.1		293	32	17	136		9	3	6	5

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月・半月	勝浦町					上板町				
	2018年	2017年	2016年	2015年	平年	2018年	2017年	2016年	2015年	平年
7.1	37	51	1	45	44	66	60	1	13	20
7.2	20	16	2	59	38	31	76	1	116	56
7.3	6	26	0	162	43	13	23	1	40	51
7.4	18	19	2	251	46	10	19	6	51	66
7.5	34	26	2	231	45	12	34	7	33	81
7.6		74	9	396	81		97	3	43	45
8.1		81	26	259	87		19	4	25	22

- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

**Ⅲ. 野菜**

**夏秋ナス**

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月5・6半月の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率35.7%、発病葉率2.8%)。

(2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 落葉した罹病葉は適切に処分する。
- (3) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液がはじかれ防除効果が劣るので、展着剤を加用し散布する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

## アザミウマ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が55.6%、寄生葉率が3.7%と、平年(68.3%、3.7%)並の発生である。なお、被害果実の発生圃場率は22.2%、被害果率は0.2%と、平年(42.9%、3.1%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので、散布むらのないように丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.4%、寄生新梢率が0.2%)。
- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(36.5%)並の発生であるが、寄生葉率は11.2%と平年(4.2%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は大半が葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

オオタバコガ(7月3日付けで注意報発令中)

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「中～多」

### 2) 予報の根拠

- (1) フェロモントラップの調査7地点において, 6月第5半旬より誘殺数が増加し, 6月6半旬の巡回調査では, 産下卵確認圃場率が44.4%, 100葉当たり平均卵数が0.7卵であったことより, 7月3日付けで注意報を発令した。その後, 7月3半旬の巡回調査では, 産下卵や被害果実は確認されなかったが, 7月6半旬の巡回調査では, 産下卵確認圃場率が33.3%, 100葉当たり平均卵数が0.7卵と, 平年(51.9%, 0.7卵)並の発生となった。なお, 幼虫による被害果実の発生圃場率が11.1%, 被害果率が0.1%と, 平年(0.0%, 0.0%)に比べてやや高い。
- (2) フェロモントラップへの誘殺数(7地点平均)は, 7月第2半旬～第5半旬までは平年並で推移していたが, 第6半旬に急激に増加し, 65頭と平年の約6倍となった。
- (3) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

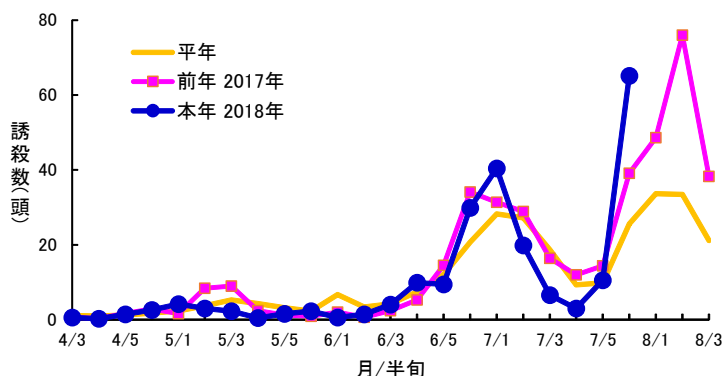


図3 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移  
※阿波市、三好市、東みよし町、石井町の7地点平均

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 被害部位(果実, 花蕾)や剪定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるため, 圃場外に持ち出して適切に処分する。
- (2) 果実や茎, 花蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するので, 若齢幼虫主体の時期に薬剤防除を行う。
- (3) 本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵する。野外での卵期間は3日程度であり, 今後, 8月上旬にも幼虫の発生ピークが来ると見込まれる。その後多い状態が続く, 防除適期が判断しづらくなる場合もあるので, 寄生部位を注意深く観察してから防除する。

## 秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない), 発生程度は「少～中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が25.0%, 寄生虫数が2.5頭と, 平年(16.1%, 0.5頭)に比べてやや多い。
- (2) 7月のフェロモントラップの誘殺数(野菜ほ場6地点平均)は, 第4半旬まではほぼ平年並で推移していたが, 第5半旬以降増加し, 第6半旬には93頭と平年の約2.6倍となっている。
- (3) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

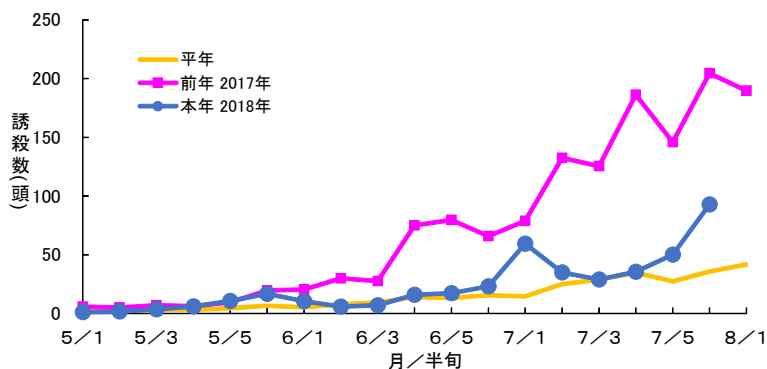


図4 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)  
\* 徳島市, 石井町, 阿波市, 吉野川市の6地点平均

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

#### ネギアザミウマ

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少～中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 7月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、被害度が1.7と、平年(44.7%, 1.2)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

#### ネギハモグリバエ

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 7月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%、被害度が7.9と、平年(95.6%, 12.4)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

## IV. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 3) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

### 予報内容の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。